

美唄市について



美唄市は、札幌市と旭川市の間に位置し、かつて炭鉱のまちとして栄え、現在は農業が盛んな地域です。

特産品には「美唄焼き鳥」やお米、アスパラガス、ハスカップがあり、また、美唄市出身の世界的彫刻家である安田侃氏の彫刻が展示されている「安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄」やラムサール条約登録湿地「宮島沼」など、芸術文化と自然が調和した地域でもあります。



移住相談窓口

美唄市では、移住相談窓口をご用意しております。美唄市での生活やお仕事、住まいなど、移住に関する様々な相談にお答えします。

問い合わせフォームから気軽に相談、資料請求ができる他、インターネット環境があれば、パソコンやスマートフォン等を使って対面での相談も可能です。北海道美唄市への移住をお考えの方から、まずは移住に関する情報を手に入れたいという方まで、お気軽にご利用ください。些細なことでもご相談をお待ちしています。



移住
ポータル
サイト



移住定住推進
協議会公式
Facebook



移住定住推進
協議会公式
Instagram

まちの最新情報はこちらから



＼まちの出来事がわかる／
美唄市公式
Facebook



＼市民主体の取組がわかる／
美唄シティプロモーション
特設サイト

美唄市 移住プロモーション冊子

企画・編集・デザイン 株式会社 FoundingBase

協力（敬称略）

写真作家 伊藤愛（表紙写真）／ 安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄／ オトナリハウス／
BIBAI NOTE / 他、撮影・写真提供にご協力いただいた美唄に関係するみなさま



北海道美唄市

美唄で暮らす。
美しく、生きる。
北海道美唄市の美しい日常

北海道移住を検討する方へ

美唄で暮らす住民の生の声をもとに制作しました。
美唄の美しさに触れてみてください。

本冊子の
内容を動画
でみる



美唄には、日常に潜む 美しさがある。

美唄市が掲げるのは「Be Beautiful 美しくあれ。」。

これは 10 代から 30 代の市民が集まり、約 1 年間にわたる議論の未完成させた、まちのありたい姿です。

ここでいう「美しさ」とは、幾多の逆境にも立ち向かう生命の輝きや、文化や風土を愉しむ精神。自然の雄大さとそこから育まれる美味しい食。そして多様な人たちと協働する喜び。美唄の土地が持つ美しさや人々が受け継いできた意思の美しさのことです。

この冊子では、そんな美唄の美しさを切り取りました。景色が美しいのはさることながら、美唄には日常の中に美しさがあります。美唄での暮らしに焦点を当て、美しさを 4 つの軸で紹介しています。

非日常ではなく、日常の美しさを切り取るために、市民の声をもとに作成しました。日常の豊かさに触れてみていただければと思います。



美しさとは、
「美味しい」と笑顔になってほしいと願い、
ひたむきに作り続ける姿。

食卓を囲む人々の笑顔を思い浮かべて、ひたむきに働く人々が美唄にはいます。出会った多くの生産者や料理人、食に関わる人々は「消費者の皆さんの『美味しい』と喜ぶ顔が見たい。」と話してくれました。美唄の豊かな食の恵みを楽しむ暮らしは、心と体を豊かに満たしてくれます。

美唄の大地では、お米やアスパラガスなど、豊富な農産物が育まれています。農家の方々は、日々作物に愛情を注ぎ、丹精込めて育てている。消費者の「あの人が作った野菜だ!」「やっぱり美唄のお米は違うね!」そんな喜びの音が、彼らの日々の原動力となっています。

そして、炭鉱時代から受け継がれてきた「美唄焼き鳥」などの食文化も、それを守り伝える人々がいるからこそ、現代でも多くの人に愛され、美唄に欠かせないものとなっています。

そんな「想い」を持ってつくられた美唄の「食」を囲むとき、地元の人も、訪れる人も、自然と笑顔が広がります。





美しさとは、
厳しいからこそ強まる、
温かな協力の輪。

豪雪地域である美唄。冬は、毎日早起きをし、雪かきをする。そんな長く厳しい季節だからこそ、ここでは声をかけ合い、自然に助け合うことが日常になっています。1人では大変だからこそ、助け合いの輪が広がっていくのです。

また、長い冬を乗り越え、やがて訪れる春の息吹を心待ちにする気持ちも、美唄の人々が共有する美しさの一つです。厳しい季節を共に乗り越える中で培われる絆は、暖かな春の訪れとともに、より一層深まっていくのです。



美しさとは、
日々の余白から生まれる、
寛大な心持ち。

ふと周りを見渡すと見えるのは、息を呑むほどの夕焼け空、遠くまで続く田畑、雄大な樺戸連山。静かで開けた景色が、ふと心を解き放ってくれます。美術館を訪れ散策するひとときはもちろん、ただの帰り道でさえ、ホッと一息つく環境が、暮らしのすぐそばにあります。こうした日々の余白が、心にゆとりを生み出し、他者との心地よい距離感に繋がるのかもしれません。それが、寛大な「心持ち」として、このまちに息づいています。



美しさとは、
年齢や立場に関係なく挑戦する勇気と、
挑戦者を応援する文化。

年齢や立場に関係なく挑戦できる環境があり、新しい取組が生まれ続けています。美唄市の新たなシンボル「Be Beautiful 美しくあれ。」の制作も、まさに市民による挑戦の一つです。高校生から30代まで幅広い世代で構成された委員会ではときには真剣に、ときには和気藹々と議論を重ね、約1年をかけてシンボル完成へと辿り着きました。

美唄市では、誰もが安心して次の一步を踏み出せるよう、支え合いや応援の空気感が醸成されてきています。子どもも大人も、長く住んでいる人も、外から来た人も、それぞれの目線を合わせて共にまちの未来をつくっています。





い



ろ



は

市民が撮った美しい瞬間

美唄に暮らす方、関わる方に向けて「日常の中で見つけた美唄での美しい瞬間」をテーマにエピソードと写真を募集しました。このページではその一部をご紹介します。美唄の「美しさ」を感じられる瞬間が詰まっています。



に



ほ



へ

い 彫刻が自然に調和して、ここに来ると「大丈夫、自分らしくでいいよ」と言ってもらえる気がします。

ろ 本州に住む私にとって、これほど広く、大きく、綺麗で、スケールの違いを感じたのは初めてで、あの綺麗な夜空、まっすぐどこまでも続く道、そしてファームステイ先でお世話になった農家さんの大きな心が印象に、そして思い出として深く残っています。

は 昔住んでいたのも、たまに美唄に帰っては写真を撮ったり。花が咲き草が茂るのをみて諸行無常を感じます。

に 妻の地元である美唄に家族で移住し 3 年。日常のふとした時に撮った美唄の空や風景が心地よいです。

ほ 2月の寒い日、自宅前でクルミの樹液を舐めるシマエナガを発見！今年も会えたねと、嬉しくなります。

へ 北海道が好きで移住してきた身としては、こんな景色が日常である今がとても幸せで、移住してきて良かったと思う瞬間です。

と 水田は、夕映えの水鏡。夕暮れ時には水面がオレンジに染まりとても幻想的です。

ち 農家を営むひいおばあちゃんの家で、アスパラの収穫を真剣に手伝う子どもの姿がとても愛おしく、忘れられないひとときとなりました。

り 澄んだ空気が広がる窓辺での時間。鳥のせせらぎを聴きながら編み物や読書をするこの時間は格別です。

ぬ 夏の休日や仕事終わり、家族や仲間たちとするのはBBQ。火を囲むことで一段と話も深まります。

る 空撮をするとそこには綺麗な緑のパッチワークが見える角度を変えるとまた趣も変わりますね。

を 美唄の冬の風物詩、雪んこまつりのゆきあかり。キャンドルが灯される幻想的な空間が毎年の楽しみです。



と



ち



り



ぬ



る



を

A photograph showing two women from behind, walking through a lush green field. They are wearing denim overalls over red shirts and carrying baskets, suggesting they are harvesting. In the background, there are traditional Japanese-style houses and a dense forest covering a hill under a cloudy sky.

無いものに目を向けるのではなく、
この地ならではの
豊かさを存分に味わい、
今日も美しく生きていく。

美唄には、きらびやかな都会のような豊かさはありませんが、
この土地ならではの美しさが存在しています。
広大で厳しい環境だからこそ生まれる温かさ、美味しい食。
他者と協働して、逆境に立ち向かう人々がいる。

そんな人々が暮らすまちはきっと美しいに違いない。
あなたも美唄で美しく暮らしませんか。